

## 第193回教育研究評議会<議事要録>

日時	令和3年7月12日(月) 14:00 ~ 16:05
場所	<TV会議により実施> 本部棟3階 特別会議室, 本部棟5階 大会議室, 医学部 第1会議室
出席者	服部学長, 藤田理事, 肥後理事, 大谷理事, 椎名理事, 長澤理事, 金山副学長, 松崎副学長, 増永副学長, 丸橋法文学部長, 加藤教育学部長, 磯村人間科学部長, 鬼形医学部長, 伊藤総合理工学部長, 川向生物資源科学部長, 田中評議員, 河添評議員, 高橋評議員, 石原評議員, 小俣評議員, 松本評議員, 河野評議員, 廣光評議員, 境評議員, 村川評議員, 杉江評議員
オブザーバー	千家監事
欠席者	向副学長 〔陪席: 企画部長, 教育・学生支援部長, 総務部長, 財務部長, 法文学部事務長, 教育学部・人間科学部事務長, 医学部事務部長, 自然科学系事務部長, 企画課長, 研究協力課長, 教育企画課長, 学生支援課長, 総務課長, 自然科学系第二課長〕

### 議題1 第4期中期目標・中期計画(素案)の策定について

- 第4期中期目標・中期計画(素案)の策定について, 全体の概要については服部学長から, 個別の項目の内容については各担当理事から説明があった。
- 続いて服部学長から前回評議会後に法文学部から提出があった中期目標大綱の「教育研究の質の向上に関する事項」に関する意見への対応について以下のとおり説明があり, その後, これらの説明について丸橋法文学長から了承するとの意見が述べられた。
  - ・「産業界」「産業界等」「企業」「企業等」など表記が統一されていないものについて, 「等」を付す形で表記を統一する。
  - ・中期計画I-1(1)-3について, 中期目標①の記載への対応として「文化の発展」の文言を追加してはどうかとの意見について, 評価指標の設定が困難との判断から記載しない。
  - ・中期計画I-2(1)-2について, 前回の資料で記載していた「ナノ学位プログラム」については表現を修正するとともに, 計画及び評価指標を整理する。
  - ・中期計画I-2(3)-1について, 「ここにしかない」と「独自性のある」の捉え方の意見について, ここではあまり厳密に考えず, 特色ある専門教育を「ここにしかない学び」と表現しつつ, 正確には「独自性のある教育プログラム」であるため, 括弧付きで記載することとする。
  - ・中期計画I-2(5)-1について, 学生の海外派遣に係る評価指標は海外派遣学生数ではなく海外派遣プログラム数の方が良いのではないかとの意見について, 派遣プログラムに取り組んだ成果が派遣学生数となること, また大学評価等におけるアウトカムの指標としても派遣学生数が使用されていることから, 評価指標は派遣学生数のままとする。
- 川向評議員から, 中期計画I-2(4)-2において, 「地域社会・産業界の代表からなる「学問展開力評価委員会」による大学院修了予定者への面談」を行うようにされているが, 全ての大学院修了者に対して実施することは時間的・人的制限から無理ではないか, また, 地域社会・産業界の代表から構成される「学問展開力評価委員会」について, 組織の具体的なイメージがあるかとの質問があり, 肥後理事から, 面接は大学院修了者全員を想定してはいない, また, 組織の母体等も含めて具体的には今後検討が必要との回答があった。

- 小俣評議員から中期計画Ⅰ－２（３）－２において教育の充実について掲げられており、多様な教育を進めるためにはギャップタームの活用が必要と思われるが、現状の一例として、学生が集中講義等のために長期インターンシップに参加できないなどの声を多数聞いており、そのような点についても配慮が必要ではないかとの意見があった。肥後理事から第４期では授業数の削減等、既存の枠組みの見直しを行ったうえで新しい教育を構築するなどにより、教育の質の向上を図る必要があるとの回答があった。
- 小俣評議員から新しい仕組みを検討するうえで、教教分離を生かして欲しいとの意見があった。
- 小俣評議員から中期計画Ⅰ－２（１）－１において工学系学部設置についての記載があるが、これは地方国立大学の定員増が採択された場合に進める話と思われるが明記するのかなどの質問があった。服部学長から基本的には学部定員増の枠組みの中で進めているところであるが、採択されなかった場合であっても工学系学部は設置するということであるとの回答があった。
- 伊藤総合理工学部長から工学系学部の設置は学部定員増を前提として検討を進めてきたため、その前提がない場合、工学系学部を設置する大義名分をどこに求めるか丁寧な説明が必要ではないかとの意見があった。服部学長から、中期計画において「地域の産業や雇用創出の中核を担う工学系学部を設置する」と記載しており、「地域の産業や雇用創出の中核を担う」ことが大義名分と考えているとの回答があった。
- 小俣評議員から地域の産業や雇用創出については工学系に限定されるものではないため、表現を和らげた方が良いのではないかとの意見があった。服部学長から県内各方面からの話を聞くと工学系学部の要望が強く、地元の要望に応えるためにも工学系学部の設置を進めたいとの回答があった。
- 松崎副学長から地元からの要請に応える形での改組ということであれば、自治体や産業界からのサポートがあるものと考えて良いかとの質問があった。服部学長から地域からのサポートがあるということが学部定員増の申請条件の一つとなっており、島根県にも支援を依頼しているとの回答があった。
- 長澤理事から工学系学部のみでなく、各部局が社会的要請に応えるためにどう変わるべきかをボトムアップで検討していくことが重要であり、各部局の活動を表に出したうえで変革していくような形で取り組んで欲しいとの意見があった。
- 以上を踏まえ、今後意見等があれば企画広報課に提出することとして、本件については議決された。

## 議題２ 令和３年度後期授業の実施基準について

- 肥後理事から令和３年度後期授業の実施基準について説明があった。併せて、本件については今後の感染状況により行動指針の段階の変化に伴う見直しの可能性はあるが、後期授業開始２週間前までの帰県について学生への周知が必要であるため、暫定的に決定することとしたいとの補足説明があった。
- 松本評議員から９月に集中講義等がある場合はその授業開始２週間前までに帰県するよう指導する必要があるかとの質問があり、廣光大学教育センター長から、現在のルール上そのように指導する必要があるとの回答があった。
- 伊藤総合理工学部長から後期の対面授業について、総合理工学部では前期は受講者数が教室の収容定員の５０％という基準がネックとなり対面授業が大きく増えない事情があったが、後期も同様の基準かとの質問があった。服部学長から通常の座学での低い感染リスクを踏まえると、対面授業をより多く実施できるよう基準を考えることもありうるのではないかとの意見があり、続いて肥後理事から、行動指針の段階１の場合における基準の設定の仕方については今後検討を行いたいとの回答があった。
- 以上の議論の後、服部学長から学生に対する帰県の指導及び対面授業の実施基準の検討

について依頼があり、本件については原案どおり議決された。

### 議題3 人を対象とし医療を目的としない研究倫理に関する規則の制定について

- 大谷理事から人を対象とし医療を目的としない研究倫理に関する規則の制定について説明があった。
- 河添評議員から、教育・学生支援本部等、学部・研究科以外に所属する専任教員等の研究についてどの部局で研究倫理審査委員会を設置するのかの質問があり、大谷理事から趣旨としては各本部となるが、実際の教員数の問題もあるため調整が必要との回答があった。
- 丸橋法文学部長から、研究者の定義に学生が含まれることから、第7条第5項に規定される研究記録の保管について、学生が研究者となる場合にはどのような対応となるかについて質問があり、大谷理事から確認するとの回答があった。
- 以上2点の質問については別途確認を行うこととし、規則案については原案どおり議決された。

### 議題4 名誉教授の称号授与について

- 鬼形医学部長から名誉教授の称号授与について説明があり、原案どおり議決された。

### 報告事項1 第3期中期目標期間（4年目終了時）の業務の実績に関する評価結果について

- 肥後理事から第3期中期目標期間（4年目終了時）の業務の実績に関する評価結果について報告があった。

### 報告事項2 JST「共創の場形成支援プログラム（地域共創分野・育成型）」の申請について

- 大谷理事からJST「共創の場形成支援プログラム（地域共創分野・育成型）」の申請について報告があった。

### 報告事項3 次世代研究者挑戦的研究プログラムへの申請について

- 次世代研究者挑戦的研究プログラムへの申請について、大谷理事から本学から申請予定のプログラムの概要について、続いて肥後理事から博士後期課程の入学状況及び博士号授与状況について報告があった。

### 報告事項4 コンプライアンス・プログラム（eラーニング）の実施状況について（R3.6.30現在）

- 藤田理事からコンプライアンス・プログラム（eラーニング）（R3.6.30現在）の実施状況について報告があった。

### 報告事項5 島根大学における節電の取組実行計画（夏季）について

- 長澤理事から島根大学における節電の取組実行計画（夏季）について報告があった。

### 報告事項6 就職に関するアンケート調査について

- 松崎副学長から就職に関するアンケート調査について報告があった。

### 報告事項7 国際交流協定の締結について

### 報告事項8 教員の採用等について

- 報告事項7及び8は書面をもって報告に代えた。